

平成 29 年 4 月

# 魚津市定例記者会見



日時：平成 29 年 4 月 3 日（月） 午後 1 時 30 分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、NHK、BBT、NICE TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、副市長、教育長、民生部長、産業建設部長、企画政策課長

## 1. 市長からの発表事項

### (1)「産婦人科クリニック開設準備室」を開設

4 月より「産婦人科クリニック開設準備室」を設けて、基本構想策定委員会による具体的な検討を行うなど、市内において分娩ができる（仮称）産婦人科クリニックの早期開設を目指す。

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

### (2)「富山湾岸サイクリング 2017」が開催（4/23）

平成 26 年度 10 月に富山湾が「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟したことを契機に始まった「富山湾岸サイクリング」も今年で 3 回目となる。

3 回目となる平成 29 年度は、魚津市（海の駅蜃気楼）がメイン会場となる。

イベント前日には、プレイベントとして“うまいもん市場”を開催し、参加者をもてなす。

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

### (3)魚津市ホームページ リニューアル

ホームページ利用者の利便性向上をめざし、4 月 3 日に市のホームページのデザインやコンテンツを 6 年ぶりにリニューアルしました。

5 月上旬には、スマートフォンを活用した子育て応援アプリ（育ナビうおづ）も配信予定。

（説明内容はプレスリリースのとおり）

### (4)サッカー日本代表OB選手による「ドリーム・サッカー in 魚津」を開催（6/10～11）

一般財団法人自治総合センターの事業として開催されている「ドリーム・サッカー」を、設立 50 周年を迎えた魚津市サッカー協会と連携しながら、魚津市で開催する。

(説明内容はプレスリリースのとおり)

## 2. 教育委員会及び各部長からの説明事項

〈教育長〉

- ・ 歴史民俗博物館開館（～11/30）
- ・ 小中学校 1 学期始業式
- ・ 魚津市立小中学校入学式
- ・ パナソニックラグビー教室
- ・ 全国植樹祭開催記念給食（魚津市の地場産を使った、植樹祭を意識した献立）
- ・ 第 37 回魚津しんきろうマラソン（参加者 約 7,500 人 昨年比 約 1,000 人増）

〈企画政策課長〉

- ・ 魚津市西布施地区地域活性化センター竣工式（愛称 西布施交流館 117 件の公募の中から選考）
- ・ 平成 29 年度第 1 回水の学び舎ツアー「河口から眺める魚津の大地」（定員 20 名）

〈民生部長〉

- ・ 魚津セーフティ&クリーン作戦（飲酒運転や迷惑駐車の前放を呼びかける運動）
- ・ 交通安全祈願祭 春の交通安全運動出発式
- ・ こいのぼりの掲揚式（魚津市役所屋上で魚津保育園園児 21 名程参加）
- ・ 平成 29 年 4 月か病児保育事業（送迎対応）を始める  
（県内自治体では、入善町、富山市について、3 番目の対応）

〈産業建設部長〉

- ・ 早月川パークゴルフ場オープン（～12/3）
- ・ 第 12 回桜のページェント
- ・ 緑化木の街頭無償配布（魚津市役所前公園）
- ・ 片貝山の守キャンプ場 営業開始（4 月 20 日予定だったが、現地の雪の関係で 22 日に変更の可能性あり）
- ・ 全国植樹祭関係特集（式典の流れ等）が魚津市広報 4 月号に掲載

## 3. 質疑応答の内容

「産婦人科クリニック開設準備室」

《記者からの質問》

産婦人科クリニックの中野隆先生は常勤であると思うが、市長の考えとして産婦人科クリニックを開設するにあたって常勤は何名必要と考えているか。また、非常勤を含め、どのくらいの体制でローテーションを回していくことを想定されているのか。

《回答》

産婦人科クリニックの体制については、今後、中野先生を中心に相談して決めていくが、病院の機能・レベル、コンセプトによって体制は変動していくと考えている。最低でも、複数の産婦人科医、更に、小児科医も必要と考えているが、全体で何人になるかは病院のコンセプト・機能によって変動する。

《記者からの質問》

最小規模の産婦人科クリニックであるとしても、複数の常勤の産婦人科医が必要であり、それより高度なものを求める場合はそれにプラスする。更には、小児科医の常勤も必要と考え方ということによいか。

《回答》

複数の産婦人科医は、必要であると考えている。小児科医が常勤か非常勤であるかは今後、検討していく必要がある。

《記者からの質問》

産婦人科クリニックは、公設民営であるか。

《回答》

運営の基本的な軸としては、公設民営であると考えている。

《記者からの質問》

クリニックの施設については、新築するのか、既存の施設を改修し利用するのか。

《回答》

立地場所による。基本構想策定委員会で、場所について、市の案は示していく。

《記者からの質問》

地域の産婦人科医も、非常勤で加わってもらうことは考えているか。

《回答》

医師会と相談して、どこまでの連携ができるのか検討していく必要があると考えている。

《記者からの質問》

中野先生は「日本母乳の会」の代表理事であるが、産婦人科医のなかでも中野先生を選ばれているということは「カンガルーケア」を進める前提で考えているのか。

《回答》

まだ、そこまで具体的な話ではないが、中野先生の考え方も聞きながらどのような産婦人科クリニックを目指すかということになってくる。考え方のひとつの表れではある。

《記者からの質問》

「産婦人科クリニック開設準備室」と「基本構想策定委員会」の位置づけはどのようなになっているのか。また、基本構想策定委員会のメンバーは決まっているか。中野先生も策定委員会に入るのか

《回答》

準備室は、策定委員会での事務局的な役割を果たす。基本構想策定委員会の意見をもとに、どのような産婦人科クリニックにしていくかは最終的には市が決めていく。策定委員会のメンバーについては、現在、人選等の検討を進めている段階である。中野先生については、メンバーの中心として入っていただく予定である。

《記者からの質問》

スケジュールとしては、本年度に基本構想を策定し、来年度に、工事等の開設準備行い、再来年の春には開設ということによいか。

《回答》

順調にいけば、9月頃を目途に構想を取りまとめ、市議会にも説明しながら、設計を秋以降に行っていく。それを基に来年度に整備をしていく。最も早くいけば、再来年度の春に開設と考えている。

《記者からの質問》

中野先生は高山赤十字病院を辞めて、魚津で勤務するのか。兼務ではないか。

《回答》

まだ、期日は決まってはいるが、高山赤十字病院を辞めて魚津で勤務することの了解は得ている。現在、勤務中の病院にも話がついている。

《記者からの質問》

中野先生は、産婦人科クリニックが開設された際は、どのような肩書になるか。別の方が、医院長になる場合もあるのか。

《回答》

医院長が、他の人物になることはないと思うが、現段階では肩書はわからない。

《記者からの質問》

新設する場合は、どの地区あたりを想定しているか。基本的な想定は、現段階ではないのか。

《回答》

いくつかの案はあるが、まだ候補地が決まったわけではないので、現段階では発表できない。

《記者からの質問》

公設民営であるとのことだが、県内で、これまで産科を公設民営で行った例はあるのか。

《回答》

全国ではあるが、県内ではなかったと思う。

《記者からの質問》

改めて、市長としてどのような「産婦人科クリニック」にしたいと考えているか

《回答》

以前も、お話したことがあるが、富山から東のエリアで年間1,000件ほどの出産がある。その6割について、黒部市民病院が周産期の二次医療を担っている。エリ

ア規模としては、その機能はその一か所で充分だと考えている。その他の新川地区でお産をする機能は、個人の医院や、病院があっても医師が一人であるなど非常に脆弱であると考えている。

周産期の二次医療が必要なお産は黒部市民病院に担っていただき、比較的、ローリスクで通常に近いお産の部分を魚津で担っていけるようになれば、圏域エリアとしてのお産の機能を分担しあえるのではないかと考えている。そういう意味もあり、どこまでを目指すかを、関係の皆さんと話をしながらコンセプトを決めていきたい。

**《記者からの質問》**

単刀直入にいうと、市内にお産ができる医院がないから設置するのではないかと

**《回答》**

専門家のあいだでは、この時代に新しく産院を作るのはどうなのかという意見もある。そのときに同じような機能を持つものを作る場合は、その指摘のとおりだが、そうではないあり方を考えていかなければならないという意味である。

**《記者からの質問》**

黒部市民病院はローリスクのお産もやっていると思うが逼迫しているとかということはあるのか。

**《回答》**

かなり、業務量は多いと聞いている。

**《記者からの質問》**

役割として周産期医療が必要になった場合は黒部市民病院でということか。

**《回答》**

黒部市民病院か、富山県立中央病院と考えている。

**《記者からの質問》**

それで「母乳の会」の関係の先生ということか。

**《回答》**

そのあたりは、このあとコンセプトをしっかりと固めていく。

**「海上遊覧船事業」**

**《記者からの質問》**

5月と秋頃に、観光船事業を新年度予算で行うことになっていたが、滑川の船が借りられなくなったが、どうなっていくのか。

**《回答》**

検討中である。キャンセルやイベント中止等の意思表示はしていない。

**《記者からの質問》**

代替策は検討しているか。

**《回答》**

当初、滑川の船でと考えていたが、報道のとおり借りられない状況になった。他の船を借りることや、最近、滑川の新たな情報も出ているので、両方探りながら検

討している段階である。

《記者からの質問》

今月中には方向性を決めないといけないのではないか。

《回答》

準備期間もあるので、今月中には決めていかなければいけないと考えている。

《記者からの質問》

港湾事務所に業務艇を出してもらおうという話もあったと思うが、そのあたりはどうか。

《回答》

基本的には、実験運航ということで、料金を頂いて、どのくらいのニーズがあるかを含めて探っていきたいという思いがある。しかしながら、民間の船が借りられない場合は、料金等の話は別になるが、そのいった面もお願いできないかということで話をしていきたい。あらゆる可能性を潰さないで考えている。まずは、民間の船で進めていきたい。